

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 29 年 9 月号



【伊都振興局】9/6 重点プロジェクト【柿の優良品種への転換推進】
～「紀北川上早生」の省力栽培に関する現地検討会開催～

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 2
1. 新ショウガ、種ショウガ生産者交流会	
2. 和海地方農業者交流会（カローリング大会）を開催	
II 那賀振興局	3 - 4
1. いちご花芽検鏡の実施	
2. 「小さくて強い農業をつくる」～那賀地方有機農業推進協議会～	
3. タキイ種苗のおすすめ品種紹介～紀の川市環境保全型農業グループ～	
III 伊都振興局	5 - 7
1. 重点プロジェクト【柿の優良品種への転換推進】 ～「紀北川上早生」の省力栽培に関する現地検討会開催～	
2. 橋本市農業講座で農薬・防除や有機農業について指導	
3. 小学校で柿料理体験を開催	
IV 有田振興局	8 - 13
1. 有田地方の農業士会と4Hクラブが合同で現地研修会を開催！	
2. オープンセミナーin有田を開催	
3. 平成29年度有田地方生活研究グループ県外研修 ～大阪府～	
4. 温州みかんの品種紹介ならびに仕上げ摘果研修会の実施	
5. 湯浅なすの園地視察	
6. 有田農業女子プロジェクト第2回研修会を開催！	
V 日高振興局	14
1. 極早生ウンシュウミカン「YN26」の果実調査行っ	

VI 西牟婁振興局

15-18

1. 重点プロジェクト【新品種導入による果樹産地の活性化】
～温州ミカン「YN26」実証園で現地研修および収穫調査を実施～
2. イチゴ「まりひめ」の栽培技術向上を目指して
～育苗圃場現地巡回及び意見交換会を実施～
3. 女性の経営参画に関する研修会開催
4. 上富田町で都市部消費者との交流による「ミカン採り体験」を開催

VII 東牟婁振興局

19

1. 那智勝浦町の小学生がナスの収穫を体験

VIII 農林大学校

20

1. 産官学連携プロジェクト！ローソンと協働で商品開発(第三報)

IX 農林大学校 就農支援センター

21

1. 平成29年度ウイークエンド農業塾 農業入門コース(第2班)開講
2. 平成29年度技術修得研修(第1班)が修了

I 海草振興局

1. 新ショウガ、種ショウガ生産者交流会

9月7日、和歌山市種生姜生産促進協議会（会長：鎌田裕司 和歌山市、JAわかやま、県農、和歌山県）では、囲いショウガ、種ショウガ試作生産者とJAわかやま新生生姜生産販売連絡協議会（会長：松本一郎）役員との交流会を開催した。出席者は関係機関担当者など含めて22名。

和歌山市種生姜生産促進協議会では、現在、県外産に依存している新ショウガの種ショウガを、一部でも和歌山市内で自給できる体制を目指しており、種ショウガの生産振興を進めている。

この日は、現地検討として和歌山市山口地区の種ショウガ生産圃場で現在の状況を確認、その後、和歌山市内松江地区の砂地圃場に移動し、昨年山口地区で試作生産された種ショウガを使用して、新ショウガを生産している圃場において、生育状況を確認した。

山口地区の種ショウガ生産圃場で生育状況を確認した新ショウガ生産者からは、「現在の畑の状態なら良い種ショウガができてそう」との感想も聞かれた。

現地検討後にJAわかやま西部営農センターでおこなわれた意見交換会では、新ショウガ生産者から和歌山市内で生産される種ショウガに期待する声がある中、種ショウガ生産に際して病虫害防除の気をつけるポイント、施肥などについて情報交換がなされた。



山口地区での現地検討



意見交換会

2. 和海地方農業者交流会（カローリング大会）を開催

和海地方農業生活連絡協議会（宮尾修司会長）は、9月12日に海南市総合体育館で農業者交流会を開催した。これは農業士会、生活研究グループ、青年農業経営者協議会、4Hクラブの面々がスポーツを通じて交流を図ろうとするもので、以前行っていたパークゴルフからカローリング（注）に変更して4回目となり、今年は16チーム、48人が参加した。

開会式の後、野上泰生副会長（和海地方青年農業経営者協議会会長）と海草振興局上野山農林水産振興部長の始球式で競技が始まった。この大会では本来のものより簡単な和海地方

独自ルールで実施した。今回は3人1チームで1試合を3イニングとし、各チーム3試合を行い、総合得点で順位を競った。

地域や栽培品目が異なり、日頃あまり交流がない農業者同志が競技を通して交流を図ることができる貴重な機会となっている。初めは静かにスタートした競技であったが、段々盛り上がり、応援、歓声や笑い声が響く楽しい大会となった。

農業水産振興課では、農業振興や地域づくりに向け、今後もこのような交流会を通じて農家、地域の連携強化を図っていく。

(注) カローリングは、氷上で行われるカーリングにヒントを得て、体育館等の床面で身近にできるスポーツとして日本で考案された競技。



カローリング競技による交流会の様子

Ⅱ 那賀振興局

1. いちご花芽検鏡の実施

8月31日、9月7日、14日、19日に紀の里農協打田支所ふるさとセンターで那賀地方いちご生産組合連合会（会長：畑昌伸氏）がいちごの花芽検鏡を実施した。今年は、いちご苗254株（「まりひめ」「さちのか」「紅ほっぺ」等）について検鏡を行った。

いちごの花芽検鏡は、顕微鏡で花芽の分化を確認する作業で、定植時期の目安を知ることができる。とくに和歌山県育成品種「まりひめ」は、未分化で定植をした場合、開花がかなり遅れる傾向があるため、花芽分化を確認してから定植する必要がある。

検鏡の結果、花芽分化は平年よりやや早い傾向であった。今回検鏡した「まりひめ」の収穫は、11月中旬頃からはじまる予定である。



いちごの花芽検鏡

2. 「小さくて強い農業をつくる」～那賀地方有機農業推進協議会～

那賀地方有機農業推進協議会（会長 関弘和）は9月6日、有機農業を広めることを目的に研修会を開催し、管内外から60名が参加した。

茨城県で6haを耕作し、年間50品目で有機JASの認証を受けている久松達央氏を講師として招き、同氏が執筆した本のタイトル「小さくて強い農業をつくる」をテーマに講演があった。

久松氏は、消費者に美味しいと喜んでもらうための3要素は「旬・鮮度・品種」であり、農産物の8割はこれで決まると説明。適した時期に適した品種を直販することで、これらの要素を満たすことができるとのことだった。また、今後人口の減少に伴う市場の縮小から、食べ物が余る世の中になるとの考えが示され、その結果、時代に合った多様な農業が必要となり、個性で選ばれる時代がくるとの説明があった。

那賀地域は少量多品目栽培の生産者が多く、久松氏とは耕作条件が異なるところも多いが、参加者は熱心に講演を聞き、多数の質問がでるなど、共感できる内容も多かったようであった。

同協議会は有機農業を消費者や生産者に広く知ってもらうため、今後も研修会等を開催する予定である。



講演会の様子（熱心に聞く参加者ら）

3. タキイ種苗のおすすめ品種紹介～紀の川市環境保全型農業グループ～

紀の川市環境保全型農業グループ（会長 畑敏之）は9月11日、「タキイ種苗のおすすめ品種の紹介」と題した研修会を開催し、会員11名が参加した。

講師にタキイ種苗株式会社近畿支店の武田浩介氏を招き、主に、温暖化への対応策や機能性成分が多く含まれている野菜の品種「ファイトリッジシリーズ」について講演があった。

武田氏は、「年々気温が上昇しており、真夏時の栽培が難しくなっている。耐暑性は遺伝子によって決まらないため、暑さに強い品種というものはない。そのため、農家個人の対策が必要である。果実に光があまり当たらないよう、節間が詰まっている品種を導入したり、遮光のために上の葉を残す。また、遮光ネット等の資材の活用、作型を変えるなどの対策が必要」と述べるなど、温暖化対策の紹介があった。

機能性成分を豊富に含むファイトリッジシリーズについては、健康で豊かな食生活を目指すという願いを込めて「ファイトリッジ」という名前がつけられたものであり、栄養素とは体をつくるために必要な成分で、機能性成分とはそれにプラスαあるとよいものとの説明があった。また、リコピンやカロテン、アントシアニンなどそれぞれ成分含量の高い品種の紹介もあり、参加者は熱心に聞いていた。

最後の質疑応答では、会員が栽培している品種についての質問や、気になる品種の特性等、次々と質問があった。参加者全員から質問があるなど、充実した研修会となった。



講演を熱心に聞く野菜栽培農家

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【柿の優良品種への転換推進】

～「紀北川上早生」の省力栽培に関する現地検討会開催～

農業水産振興課では、管内で発見された柿の極早生品種「紀北川上早生」の面積拡大に資するため、現地栽培園で摘蕾省力化技術および生理落果軽減のためのジベレリン処理の検討を行っている。

9月6日、JA紀北かわかみ営農指導員に呼びかけ、収穫直前の果実や樹の状況について現地検討会を開催した。

摘蕾省力化技術については、かき・もも研究所で開発された結果母枝先端芽せん除技術の実証を行った。昨年度は「紀北川上早生」の成木を対象とし同様の技術実証を行ったが、生産者や営農指導員から栽培面積の多い若木では生理落果が増えるのではないか、との懸念の声があったため、今年度は若木を対象とし、ジベレリン処理を組み合わせる実証を行った。

普及指導員から調査データを説明した後、実際に果実や樹の状況を紹介した。また、現地へ推進する上での留意点や果実の肥大・着色状況を確認し意見交換を行った。

当課では、今後収量調査を行った上、これまで得られたデータを元に栽培に関するマニュアルを作成し、紀北川上早生の振興につなげていく。



処理樹を紹介しながら結果を説明

2. 橋本市農業講座で農薬・防除や有機農業について指導

9月7日、橋本市役所北別館で開催された「働く人のための野菜作り（冬野菜）講習会」において、普及指導員が農薬・防除や有機農業について講義を行った。本講習会は、橋本市農林振興課が企画・開催しているもので、農業に興味をもっている市民を対象に、働きながらできる農業を提案しており、仕事を持つ対象者に配慮し、夜間や休日に開講されている。

本講習会では先進農家や普及指導員が分担して講師を務めており、全5回開催のうち3回目にあたる今回は受講者10名が出席した。当日は、農薬防除に関する基本的な知識や防除上の注意点、有機農業やエコファーマー制度等について紹介を行った。

参加者から「展着剤の必要性」や「農薬の混用」等の質問が積極的に出されるなど、農薬の使用方法に対する関心の高さがうかがわれた。

橋本市では、本講習会を通じて農地の維持等につなげたいと考えており、当課も橋本市と連携し本格的な農業経営者の確保をめざし支援を行っていきたい。



普及指導員による講義

3. 小学校で柿料理体験を開催

9月12日、九度山町農業推進婦人グループ(広田芙美会長 会員10名)は、九度山小学校3年生39名を対象に柿料理体験学習を開催した。

九度山小学校は、柿の園地や選果場等の見学など1年間を通じて柿についての学習を深めている。柿を使った料理体験を通じて、子供の頃から柿を食べる習慣をつけることを目的に、平成20年度から農業教育推進事業を導入し実施している。

当日は会員7名と普及指導員、九度山町学校栄養士が柿カレー、柿と海草のサラダ、柿のヨーグルトあえなど料理作りの指導を行った。

柿カレーは九度山町特産の富有柿を使っており、子供たちは柿カレーと柿の入っていないカレーを食べ比べて「柿カレーの方がおいしい」とおかわりをする子供も多く大変好評であった。

学校栄養士からは、「柿は肌をきれいにする効果があり、学校給食でも10月から柿料理をたくさん出すのでしっかり食べてください」との話があった。



九度山町の柿と料理について説明する会員



栄養士が柿を使った給食について説明



柿の皮をむく小学生たち

IV 有田振興局

1. 有田地方の農業士会と4Hクラブが合同で現地研修会を開催！

9月12日、有田市で、有田地方農業士協議会（会長 嶋田勝彦）と有田地方4Hクラブ連絡協議会（会長 井上信太郎）との合同による現地研修会が行われ、68名が参加した。

この研修会は、管内の農業生産や農産加工、また市町の取り組みなど地域の優良事例を学ぶとともに、会員同士の交流を図ることを目的に、毎年管内の各市町持ち回りで実施しており、本年は有田市内の4事例について研修を行った。

① 佐原洋一氏 マルドリ園の概要

元指導農業士の佐原洋一氏から、平成17年から実施しているマルドリ方式による温州みかん栽培について説明を受けた。佐原氏は、95aでマルドリ栽培を行っており、今年の生育状況など活発な意見交換が行われた。



佐原氏のマルドリ園

② 有限会社 ヒカル・オーキッドの取り組み

代表取締役社長 佐原宏氏から、ヒカル・オーキッドにおける胡蝶蘭（鉢物）の生産、販売の状況について説明を受けた。社内では、見事な胡蝶蘭が生産されており、参加者は興味深く見学を行っていた。



有限会社 ヒカル・オーキッド

③ 有田市原産地呼称管理制度「認定みかん」への取り組み

有田市役所有田みかん課 酒井宗博係長から、「認定みかん」への取り組みについて説明を受けた後、認定園地である地域農業士 久世佳典氏の園地を見学した。参加者からは、認定の状況や園地の着果状況等、活発な質問が出ていた。



久世氏の「認定みかん」園地

④ アイディア満載！ おもしろ倉庫への取り組み

～省力・省エネ型倉庫の概要～

有田市の畑中伸治氏から、農作業倉庫での省力化への取り組みについて説明を受けた。参加者は、整理整頓が行き届いた倉庫内やキャスターを利用したコンテナ等の移動など、数々の工夫が施された倉庫内を興味深く見学するとともに、畑中氏の説明を熱心に聞いていた。



畑中氏の倉庫

今回の研修を通じて、地域の優良な取り組みを学ぶとともに、会員同士はもとより、地域リーダーである農業士と将来の地域の担い手となる4Hクラブ員との交流も図ることがで

き、大変有意義な一日となった。今後も各種研修を実施し、農業士会や4Hクラブの活動を支援していく。

2. オープンセミナーin 有田を開催

9月14日、有田市の畑中伸治氏の特別栽培を行っている温州みかん「YN26」園及び倉庫にて環境保全型農業栽培技術現地研修会（オープンセミナーin有田）を開催した（主催：和歌山県環境保全型農業推進協議会）。

現地見学及び情報交換会には生産者及び関係者合わせて39名が参加し、畑中氏の園地管理や「YN26」の現在の状況、特別栽培に取り組むまでの経緯等についての説明を受けた。また、情報交換会では、畑中氏の使用している資材を実際に見ながら盛んに意見を交わし、使用している肥料についてなど活発に質問が出ていた。



現地で見学会（「YN26」園地）



倉庫での情報交換会

3. 平成29年度有田地方生活研究グループ県外研修 ～大阪府～

9月6日、大阪府内において有田地方生活研究グループ連絡協議会（会長：宮本富美子）の県外研修を開催し、会員、関係者合わせて28名が出席した。

研修では、まず羽曳野市にある「河内ワイン館」にてワイン用ブドウの栽培や、加工の流れについて説明を受けた。その後、四条畷市にある「グリーンガーデン」にて都市近郊農業の取組と古民家の利用について学んだ。

さらに、和泉市の「道の駅 いずみ山愛の里」で店舗を運営している、生活研究グループ会員が立ち上げた有限会社である「農業法人 いずみの里」の代表取締役 久保充己氏より取組の紹介と意見交換を行った。会員らは、行動力あふれる久保氏の話をも熱心に聴き、商品などについて質疑を交わしていた。

農業水産振興課では、今後も生活研究グループの活動活性化のため、他地域との交流も行っていきたい。



グリーンガーデンの野菜ハウスを見学



いずみの里 久保充己氏



いずみの里で販売されているみかんラスク

4. 温州みかんの品種紹介及び仕上げ摘果研修会の実施

就農して間もない農業者を対象に実施している「アグリビギナー等技術経営研修」の第3回を9月22日に実施し、新規就農者や4Hクラブ員16名が参加した。

温州みかんの品種紹介については、果樹試験場栽培部の田嶋主査研究員より、日本のカンキツの歴史や場内での育種や現地での枝変わり探索の取り組みにより品種登録された県のオリジナル品種等について説明があった。

また、試験場で育成した「YN26」の試食会も行われた。

仕上げ摘果については、上山普及指導員が病虫害防除や施肥を含めた今後の栽培管理について説明した後、指導農業士の嶋田勝彦氏（有田川町）の園地に移動し、嶋田氏より着果や着葉程度の違う樹での仕上げ摘果の実演とともに、来年の結果母枝を確保する予備枝の設定等についての説明があった。

参加者からは、着果量の多い樹を適正な葉果比にするためには、かなり摘果しなければならないことを実感したという意見が多かった。

今後、簿記記帳等の経営に関すること、剪定や苗木の植付に関する研修を予定している。



果樹試験場田嶋主査研究員による
みかんの歴史や品種の説明



上山普及指導員による管理作業
についての説明



「YN26」の試食



嶋田勝彦氏による摘果、予備枝の設定
等についての説明・実演

5. 湯浅なすの園地視察

有田地域ではかつて、金山寺味噌の具材として地元の伝統野菜「湯浅なす」が栽培されていた。しかしながら、近年では生産性の高い長なすに押され、「湯浅なす」の栽培農家は減少し、2軒となった。そこで、金山寺味噌を製造・販売する丸新本家代表取締役の新古敏朗氏が「湯浅なす」の栽培を農家に呼びかけ、現在では湯浅町と有田川町で8軒の農家が栽培に取り組んでいる。

「湯浅なす」は1果あたり 200g~400g と大玉で丸く、肉質がしっかりしており、古くから金山寺味噌などを作るために湯浅で栽培され続けてきた固有種である。しかし、枝が折れやすく、葉で果実がすれると表面がすぐ傷つくなどの特徴があり、栽培管理が難しい。そこで、栽培に苦慮する若い農家を支援するため、ベテラン農家の園地への視察を9月13日に行った。ベテラン農家から、水管理と肥培管理の重要性、果実周辺は摘葉を徹底して果実に擦れないようにすることなどの話があり、若手農家は熱心に聞いていた。

今後も園地視察や巡回などを行い、有田地域の伝統野菜である湯浅なすの栽培を支援していく。



伝統野菜の湯浅なす



若い農家（中央、左）に栽培のコツを伝授するベテラン農家（右）

6. 有田農業女子プロジェクト第2回研修会を開催！

9月26日、果樹試験場の会議室にて「有田農業女子プロジェクト第2回研修会」を開催し、管内の概ね45歳以下の農業女子17名及び女性農業士4名が参加した。本イベントの目的は、普段あまり交わりのない農業女子同士が交流することで知り合いの輪を広げ、農業についての知識や技術を身につける場をつくることである。

研修会では、まず農業水産振興課の森本主査が「鳥獣害対策（入門編）」について講演した。イノシシやシカ等の特徴と対策について、参加者らは熱心に耳を傾けていた。

意見交換会では、5名のグループに分かれて「ジビエ料理は好き？苦手？」や「農業の好きなところ、大変だと思うところ」等について話し合った。

各グループにインタビューした結果、ジビエについては「シシ肉が好き」「シカ肉が好き」という意見もあれば「食べたことはないが、食べようとも思わない」という意見もあった。また、農業については「若い人のやり方を大事にしていく必要がある」といった意見が得られた。アンケートでは「意見交換会の時間を長くしてほしい」等の要望が寄せられた。

次回の研修会は2月中下旬から3月上旬を予定している。当課では、地域をより活性化するため、女性農業者の活動支援に力を入れていく。



森本主査による講演



意見交換会



当日の参加者

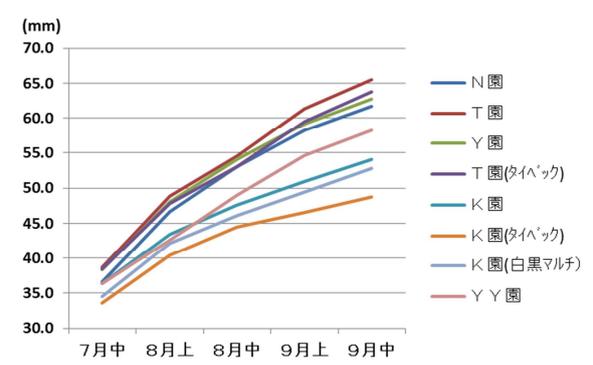
V 日高振興局

1. 極早生ウンシュウミカン「YN26」の果実調査を実施

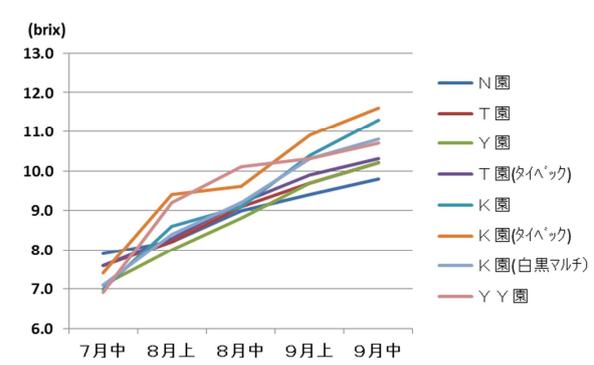
農業水産振興課では、県が育成した極早生ウンシュウミカン「YN26」の導入を推進している。「YN26」は5年前から苗木が本格導入されたばかりで、栽培現地における品種特性が十分把握されていない。そのため当課ではJA紀州、県農と共同で現地適応性について果実の調査を行っている。調査園として平成27年から継続調査している日高川町の3園地に加え同町内で1園地、由良町で1園地の合計5園地で行った。また一部園地では試験的にマルチ被覆も行った。

本年は夏期（5月～7月）の降雨が少なく、園地や管理による肥大や糖度の差が大きかった。酸度は園地による差は少なかった。マルチ栽培では被覆期間が短かったことや天候の影響等から差はみられなかった。

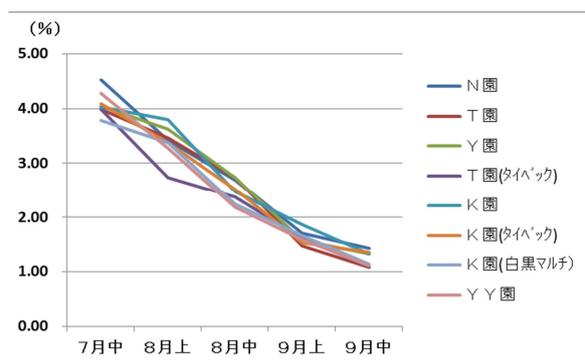
今後も関係機関と連携して栽培現地における品種特性の把握に努めるとともに、産地化に向け取り組みを進めていく。



果実横径の推移 (mm)



果実の糖度の推移 (Brix)



果実のクエン酸濃度の推移 (%)



調査の様子

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新品種導入による果樹産地の活性化】

～温州ミカン「YN26」実証園で現地研修および収穫調査を実施～

9月12日、上富田町岡の「YN26」栽培実証園において現地研修会（農業水産振興課とJA紀南の共催）を開催した。

当課では、極早生種の有利販売につなげるため、減酸が早く糖度が高い県オリジナル品種「YN26」の導入推進に取り組んでおり、今回、実証園を設置している上富田町の生産者を対象に開催し、約20名が参加した。

普及指導員が本年度の栽培管理経過を説明し、特に本年度から高品質生産に向けマルチを敷設して樹のストレス状態等を観察しながら栽培管理に努めたことを報告した。参加者らは6年生樹の樹姿や着果状況を確認するとともに、「高品質生産のためマルチの設置は必要か？」「果皮の着色を促進する方法はないか？」「果実の裂果が多いと感じるが、品種の特性なのか？」等、多くの質問があった。また、着果果実の試食では、「着色が一分程度でも、この時期の果実として食味は良く有望な品種だ。」との意見が多く出された。

また、同実証園において9月29日に経営支援課およびJA紀南とともに、果実品質と収量を確認するため収穫を実施した。

マルチ被覆した樹は、S果が主体で着色程度は2～3分、平均糖度が11.6、平均酸度が1.13。一方、マルチを被覆していない樹は、M果が主体で着色程度は1～2分、平均糖度が10.5、平均酸度が0.95であった。一樹当たり収量（6年生）は、共に着果が多めの樹では約20～25kgの収量があった。

マルチ被覆により糖度、着色とも高まり、高品質生産の実証につなげることができた。今回の調査結果は、生産者や関係者へ情報提供を行うとともに、現地実証園の展示効果をさらに高めながら、生産者の導入意欲向上による面積拡大につなげていく。



現地研修会の風景



収穫調査の風景



「YN26」着果状況

2. イチゴ「まりひめ」の栽培技術向上を目指して ～育苗圃場現地巡回及び意見交換会を実施～

9月8日に稲成いちご研究会（会長 宮本誠士）は、イチゴ「まりひめ」の栽培技術向上を図るため、研究会会員7名、JA紀南職員2名、普及指導員1名が参加し、各会員の育苗圃場巡回や意見交換会を行った。

育苗圃場巡回では、生育状況（病虫害の発生等）の確認を行った。普及指導員からはこれからの栽培ポイント（炭疽病・うどんこ病の防除法）と9月14日に花芽検鏡することを伝え、その結果を基に適期定植するよう指導した。また、会員からは「葉炭疽病の見分け方をどうしたら良いか教えてほしい」等の質問があり、普及指導員から見分け方等を指導した。さらに、一昨年から試作に取り組んでいる県育成品種の新品種「紀の香」の育苗方法と定植後の草勢管理等についても話し合いがなされた。

今回、「まりひめの高品質生産」への取り組み意識が高まるとともに、「まりひめ」だけでなく「紀の香」の品種特性や栽培管理方法（施肥、病虫害等）についても、参加者相互の情報共有等を図ることができた。



高品質生産への取り組み等意見交換



育苗圃場での意見交換

3. 女性の経営参画に関する研修会開催

9月6日、田辺市上秋津環境改善センターにおいて、農業水産振興課主催による農業簿記記帳を基にした経営改善を考える研修会を開催し、管内の担い手や女性農業者等40名が出席した。

研修会では、和歌山大学食農総合研究所特任教授 辻和良氏を講師に、「一步進める！我が家の経営分析」と題して講演が行われ、農家の貸借対照表と損益計算書を事例に、経営の分析手法や診断手順について話があった。

続いて、和歌山県農業会議農業者年金総合指導員 向井元治氏から「節税になる農業者年金とは」と題して、年金が積み立て方式に代わったことや、税金の優遇措置などのメリットも多いと説明があり、参加者は自分に合った節税ができるのか熱心に聞いていた。

最後に、パソコンソフトを使って記帳を行っている農家から自身の事例紹介も行われた。農業簿記記帳を行っている農家からは、「分析を進めて少しでも経営が良くなるように」「経営移譲を控えているので良い機会になった」と前向きな意見があった。

当課では、今後も農業簿記記帳の研修会等を開催し、担い手や女性の経営参画が進むようサポートしていきたい。



実際の農家事例を用いて経営の
分析方法を説明する辻特任教授



熱気でいっぱいの受講者

4. 上富田町で都市部消費者との交流による「ミカン採り体験」を開催

9月28日、上富田町内のミカン園にて、都市と農村の交流事業実行委員会（委員長：林順司、構成：上富田町内の農家・行政・JA）主催による「ミカン採り体験」が開催された。

上富田町の主要品目であるミカンの消費拡大を図るため、取引先であるコープこうべ関係者や消費者を招き毎年開催しているもので、今年で17回目を迎え39名の参加があった。

最初にJA紀南上富田事業所で歓迎セレモニーとJA担当者から産地のミカン生産状況の説明が行われ、その後、ミカン園に移動して収穫体験を行った。参加者らは普及指導員からおいしいミカンの選び方についてアドバイスを受けた後、地元生産者らと交流しながら一人あたり約3キロを収穫した。

収穫は試食を楽しみながら行い、「産地で食べるミカンは新鮮で香りが高く、濃厚な味わいで甘い」「果実がたわわに実っておいしそう」等、満面の笑顔で話されていた。また、「神戸に帰ってから、ぜひこの美味しさを周りの人たちにも伝えたい」という声も多く、大変うれしい言葉を聞くことができた。

ミカン採り体験の後、JA紀南総合選果場でミカンが収穫されてから箱詰めされるまでの選果作業を見学した。

消費拡大を図るうえで、生産者と消費者との信頼関係を築いていくことが最も重要であることから、当課ではこのような活動を今後も支援して都市と農村の交流事業を積極的に進めていく。



歓迎セレモニーの様子



おいしいミカンの選び方の説明

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 那智勝浦町の小学生がナスの収穫を体験

9月8日に勝浦小学校3年生43人、9月15日に宇久井小学校3年生21人が那智勝浦町南大居でナスの収穫体験を行った。例年、新宮周辺地場産青果物対策協議会（小田三郎会長）が中心となり、地産地消推進活動の一環として、同町内の小学生を対象に行っている。

畑で児童各自に収穫バサミが配られ、園主より収穫の際の注意点について説明後、児童達はほ場内に散開し、思い思いの場所で1人5個のナスを収穫した。



ナスを収穫

収穫後、JAみくまの太田営農センター集出荷場で、生産者組織である「太田のナス組合」の組合員4名が指導する中、児童各自が収穫したものから3個のナスを選び、事前に児童達が思い思いの言葉を書いたポップとともに袋詰めした。

袋詰め終了後、新宮広域圏公設卸売市場の中本勝久市場長から、ナスの美味しい食べ方などについて話があった。

その後、児童達から「ナスの病気や害虫はどうして出るの?」、「二股のナスはどうしてできるの?」や「ナス1本から何個採れますか」など多くの質問が出され、太田のナス組合員と普及指導員が答えた。

袋詰めされたナスは、翌日、新宮中央青果を通じて同町内の青果店で販売された。



袋詰めを指導する組合員



袋詰めされたナス

VIII 農林大学校

1. 産官学連携プロジェクト！ローソンと協働で商品開発(第三報)

9月12日から、近畿エリア（大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県）のローソン店舗（2017年7月末現在2,370店）で、アグリビジネス学科の学生が商品開発した「梅と生姜のしらす焼おにぎり」と学生がパッケージデザインなどに取り組んだスイーツバーガーが2週間限定で発売された。

「焼きおにぎり」は、疲れている30代サラリーマンに向けて「元気になる」というコンセプトで提案し出来上がったもので、袋を開けると湯浅醤油の香りがする和歌山県のおいしさがぎゅっとなつまったものになっている。また、スイーツバーガー（桃ピューレとクリームが入ったサンドイッチパン）については、商品名やキャッチコピー、パッケージデザインにアイデアを出し、和歌山県のマスコットキャラクターである『きいちゃん』をパッケージに入れることで和歌山らしさを表現した。

また9月15日には、ローソン高野口大野店で、学生による販売実習を行った。

今回のローソンとの協働プロジェクトに取り組んだ結果、学生からは「果実や野菜の加工に取り組みたい」、「地域の農家や企業とタイアップして自分たちの手で育てた農産物の6次産業化を目指したい」といった声が聞かれた。



ローソンとの協働で開発した商品



ローソン高野口大野店での販売実習の様様

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 平成 29 年度ウイークエンド農業塾 農業入門コース(第 2 班)開講

ウイークエンド農業塾農業入門コース（第 2 班）が 9 月 2 日にスタートした。

研修は 10 名が受講し、10 月 29 日までの週末を利用して計 10 日間、農業の初歩的な知識や技術などを学ぶ。

開講初日は、「和歌山県農業の概要」と「ストックの栽培」の講義の後、ストックのは種と、定植準備（うね立て、かん水チューブ・フラワーネットの設置）を実習した。



開講式の様子

2. 平成 29 年度技術修得研修(第 1 班)が修了

9 月 15 日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第 1 班）の営農設計発表会及び閉講式を開催した。営農設計発表会では、自分が思い描く営農プランを発表し、意見交換を行った。閉講式では、5 月から 9 月までの計 25 日間、講義や実習により農業全般を学んだ 5 名に修了証書が手渡された。

修了生が目指す農業経営の実現に邁進することを期待する。



営農設計発表の様子



修了証書授与の様子

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489